

会報

—No.41—

平成20年7月6日発行
群馬県中学校長会
会長 原澤正光
前橋市文京町二丁目19-18
電話 027(223)7158



皆様と共に

群馬県中学校長会長 原澤正光

群馬県中学校長会は、県下中学校長間の緊密な連絡連携を図り、中学校教育の振興に寄与することを目的に、県内173校の中学校長によって運営されています。今日、教育会においては、教育基本法の改正及びこれを受けた関連法規の制定等、教育制度の動きに加え、義務教育国庫負担率の低下や人材確保法の見直しなど、今までにない重要な局面が続いています。この現状を踏まえ、本会は、本部役員、各専門部長、各特別委員会委員長等、全会員が総力を挙げて、「生きる力」をはぐくむ特色ある学校づくりを基底にした中学校教育を推進していく必要があります。

そのためには、全会員が一堂に会する機会である5月の定例総会並びに研究協議会と11月の全体研究協議会の運営について、内容を精査し、より充実した研究協議が行われるよう努めていかなければならないと考えています。

また、様々な情報を共有する場として重要な役割を果たしている理事研修会が、全会員の皆様に直結した緊密な連絡提携を図る場として有効に機能するよう運営していくことも大切であると認識しています。

さらに、県中学校長会事業推進の中核となっている各専門部や特別委員会の活動の成果等を、全会員で共有していくことが大事であると思っています。研究調査結果等、貴重な提言を大いに活用して、学校経営に役立てていきたいと思えます。

変貌極まりない激動の時代です。新学習指導要領に基づいた新しい教育課程の編成・実施に備えて、あるべき教育の姿や「生きる力」をはぐくむ子どもの育成について、皆様と共に、思索を重ね、研修、実践を積み上げていくことができれば幸いです。

全日中総会報告

第59回全日本中学校長会に参加して

書記 生方 徳光

第59回全日中総会は、東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて5月21日(水)に総会及び講演、22日(木)に行政説明及び皇居特別参観の日程で開催された。

総会では国歌斉唱の後、草野会長より、「中学校教育60年記念第58回全日本中学校校長会東京大会の総括」、「学校からの教育改革（全日中の教育ビジョン）」等活動の重点に触れながら挨拶が述べられた。

昨年度役員への表彰に続き、銭谷眞美事務次官から祝辞があり、今年度は告示された新指導要領について校長のリーダーシップのもと改正の趣旨について準備を進めることが喫緊の課題である。その課題を追求する中で魅力ある教師の育成と創意・工夫あふれる学校経営を推進してほしいと締めくくられた。

続いて議事に移り、平成19年度会務・決算の承認、平成20年度壺内明新会長（港区立御成門中学校）以下役員を選出、活動方針・予算案の承認、第60回全日中福島大会の主題の提案等が審議、決定された。最後に本総会の宣言・決議を承認しすべての議事が終了した。

午後は文科省金森初等中等教育局長より「当面する初等中等教育上の諸問題」をテーマとした講演があった。学習指導要領改訂の趣旨、移行処置の概要、条件整備等について述べられた。

二日目の行政説明では文科省初中局を中心に本年度の施策等の説明があった。主な内容は、教育企画課長より学校評価の概要、コミュニティ・スクール推進プランについて、財務課長から教育給与の見直しについて、特別支援教育課長からは特別支援教育に係わる法改正と国際的な動向について、教職員課長から教員免許更新制の実施に対する留意点について、教育課程課長より教育内容の主な改善事項、移行措置の概要等について説明が行われた。その後、皇居特別参観が行われすべてが終了した。本県から総会に代議員4名他50名、皇居特別参観には5名が参加した。

関ブロ千葉大会報告

第60回関東甲信越地区中学校長会 研究協議会千葉大会に参加して

書記 中村 洋

第60回関東地区中研究協議会は、6月19日(木)・20日(金)の2日間にわたって、千葉県千葉市のホテルグリーンタワー千葉において開催された。

開会式では国歌斉唱の後、星敏大会会長、高崎哲郎実行委員長より広範多岐にわたる教育改革の進行や新たな教育課程編成等に向けて、意欲的、創造的な教育活動を展開するにあたり今大会をその一助としてほしいとの挨拶が述べられた。

続いて、文部科学省初等中等教育局 宮崎活志視学官から次の内容について説明があった。(1)教育振興基本計画について (2)教育基本法、学校教育法の改正と義務教育の充実について (3)学校評価について (4)新学習指導要領と教育課程編成実施について (5)児童生徒の問題行動について (6)教員免許状の更新制について。特に、新学習指導要領については、今回の改訂の画期的な点として、地道で実直な指導要領であること、バランス・調和を重視したこと、現場主義に立ったものであること等を強調し、子どもたちの生きる力を育てるために本気・活気・覇気をもって取り組んでほしいと締めくくられた。

全体研究協議会では、君津市立周南中学校 花井校長より「未来を拓く心豊かでたくましい日本人を育てる中学校教育」を主題とし、(1)学校づくりは地域づくり (2)豊かな学びの集積で地域からの発信を (3)小中連携教育を軸に他に誇れる『おらが学校』づくり、を研究の視点として、自校の実践を中心に地域各校での取り組みを紹介した。

次に記念講演としてスポーツジャーナリスト増田明美氏の講演があった。自分自身のこれまでの歩みを振り返りながら、一流の陸上選手を育てているそれぞれの監督の個性ある人柄や指導法などを紹介し、師弟関係の在り方について示唆に富む講演であった。

二日目は9分科会に分かれ、それぞれの提案について活発な研究協議が行われた。第5分科会「特別活動・部活動」では、本県太田・旭中 佐藤校長が「主体性を育む特別活動の実践」をテーマに発表し、好評を得た。また、同分科会の司会を太田・休泊中阿由葉校長が務めた。講評及び来年度開催の神奈川県との挨拶の後、分科会ごとに閉会した。本県からは40名が参加した。